

モモ栽培サポータークラブの新たな取組

佐野達也（尾張農林水産事務所農業改良普及課）

【2024年6月掲載】

【要約】

モモ栽培サポータークラブの活動拡大のため、令和3年度に新たに有償の作業受託制度（援農コントラクター制度）を導入した。取組の成果として、援農実績は令和2年の157回に対し、援農コントラクター制度実施後の令和3年は509回、令和4年度771回、令和5年度は724回と大幅に増加した。

1 産地概要

J A尾張中央管内（小牧市・春日井市）では、温暖な気候と丘陵部の地形を活かしてモモ・ブドウを主体に産地形成され、その他カキ・ナシ・イチジクなどの落葉果樹も栽培されている。

モモについては、小牧市では北東部の篠岡地区を中心に、緩やかな斜面を利用して栽培されており、春日井市では、北部丘陵地、平坦地の桃山地区を中心に栽培されている。

両市ともに園地が点在していることで、効率的な大規模経営が困難な状況にあり、また、都市化や農業従事者の高齢化、後継者不足により、栽培戸数・栽培面積が減少している。産地縮小に歯止めをかけるため、平成27年に地域担い手育成総合支援協議会（図1左）が援農ボランティア「モモ栽培サポータークラブ」を組織した。平成28年からモモの袋がけ作業を中心とした援農活動が本格的に始動し、これまで組織体制の充実、サポーターの技術養成を行ってきた。

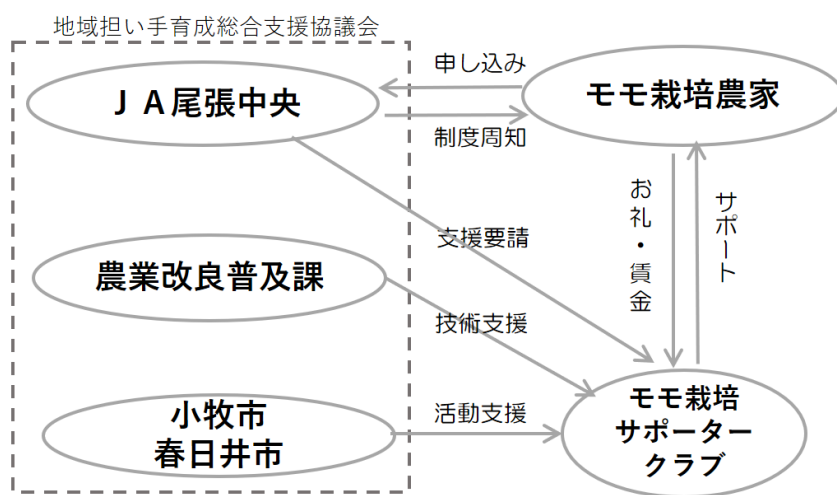


図1 組織連携体制

2 令和3年～令和5年にかけて行った2つの新たな取組

農家側は、無償で作業をお願いすることに抵抗があったため依頼が伸び悩んでいた。また、これまでサポートは袋がけを主としていたが、摘蕾や摘果などの着果管理作業についても農家からの要望があった。これに対処するため、有償で作業を請負う「コントラクター制度」の導入と作業メニュー（着果管理）を拡充することにより農家側のニーズに対応した。これらの取組は、サポーターの技能

レベルの向上が求められるため、以下の活動を行い、サポーターの更なる育成・技能強化を図った。

(1) 講習会資料の充実による高度な作業技術の見える化

サポーターの技術向上のために講習内容の充実を図った。農協の協力を得て、栽培マニュアルに写真等を用いて見やすいよう改訂した。また作業動画を作成し、農協のホームページで閲覧できるようにした。

(2) 作業検定の導入によるコントラクター技能レベルの確保

サポーターがコントラクター制度に参加するための検定を導入した。検定に合格するためには、サポーターが実際に袋掛け作業を実施し、作業が適切に行われているか、単位時間あたりの袋掛け数が適正か、安全への配慮をしているか等、10個のチェック項目を全てクリアする必要がある。この検定により、サポーターがチェック項目をより意識するようになり、全体の技能レベルが向上し、作業精度に対するクレームが減少した。

(3) 支援する際の班編成の改善

ベテランサポーターがリーダーとなるように班編成(2~3人)を行い、作業が終わるごとにリーダーを中心に皆で作業見落としが無いかを確認してから、次の樹へ移るような形式とした。



図2 新たに作成した袋掛け作業マニュアル

写真1 検定の様子

3 取組の成果

コントラクター制度を導入することで農家が気兼ねなく制度を利用するようになった。また、作業検定等によりサポーターの技能レベルが確保され、依頼できる作業メニューを拡充した結果、農家が仕上げ摘果・収穫等の高度な技術レベルの作業も依頼するようになった。その結果、令和2年度の援農実績（活動延べ人数）が157回に対し、コントラクター制度実施後の令和3年度は509回、令和4年度は771回、令和5年度は724回と援農制度の利用が大幅に増加した。

サポーターの人数はコントラクター制度導入前の令和2年が27人であったのに対して、導入後の令和3年度は32人、令和4年度は43人、令和5年度は50人に増加した。

4 今後の課題

今後は支援農家数の増加に向けた活動を行い、これまでの実績を大きくPRする必要がある。すでにJA広報紙、新聞への掲載等は事務局であるJA尾張中央によって実施されているが、講習会や個別巡回でもPRすることが重要である。

また、援農制度の活性化により運営側の日程調整作業が増加した。そこで事務局は令和4年度よりサポーターへの連絡手段にLINEを活用しており、まとめて連絡ができるようになった事で、事務作業の負担が軽減された。しかし、件数増加に伴う調整作業の増加は今後も大きくなることが予想されるため、連絡・調整事務のさらなる省力化が必要である。

モモ栽培サポータークラブは平成27年の設立から9年が経過し、当初から参加しているベテランサポーターは高齢化している。新たに加入するサポーターも定年後の余暇活動として参加する方も多いため、常に新たな参加者を確保する必要がある。

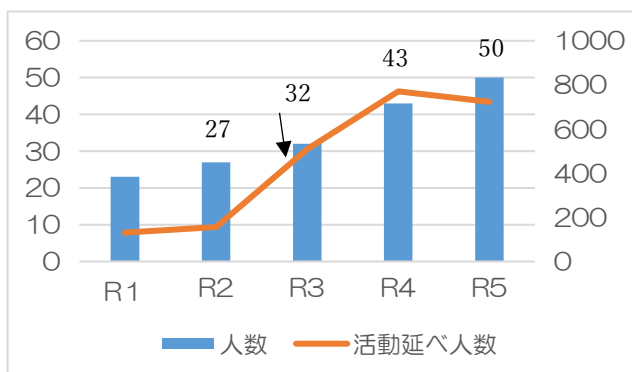


図3 モモ栽培サポータークラブの登録者数及び活動延べ人数